

※水色と黄色のセルは回答必須。薄緑色セルは任意。申請書の段階から項目3に変更があった場合、直接入力の上書きして下さい。

(一財)全国地域情報化推進協会 御中 報告日 2021年2月15日

派遣決定番号

## 地域情報化アドバイザー制度活用報告書(4日目)

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

### 1. 申請団体情報

#### 1-1. 申請団体

団体名	岐阜県立郡上北高等学校		代表者名	後藤 敦
担当者部署	進路指導部		連絡先電話番号	0575-82-2073
担当者役職	中高一貫コーディネーター	担当者氏名	熊崎孝之	連絡先E-mail
住所	501-5122 岐阜県郡上市白鳥町為真1265番地2			

#### 1-2. 推薦団体(「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力)

団体名	郡上市教育委員会	連絡先部署	学校教育課
担当者氏名	永井 伸幸	連絡先電話番号	0575-67-1468
		連絡先E-mail	

### 2. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	濱田 真輔
評価	大変よい
上記評価の理由(どのようなところがよかったか等詳細に)	これまで4日間の指導を依頼したが、実施時間や内容が急に変わることがあっても臨機応変に対応いただき、助かった。また、実際に東日本大震災の映像を流されるなど生徒にインパクトを与えるため工夫をしてくださった。指導に関しても、高校生がファシリテーターになることで生徒間の探究力の向上につながることを念頭に指導いただいた。生徒も交流をすることで楽しさを感じることも、災害に関する意識を向上させることができた。オンラインということによって不安を抱えながらだったが、無事に終了し、情報化の進展による新たな学び方の模索にもつながった。何よりも生徒たちとコミュニケーションをとることに長けており、生徒がリラックスしながら探究することができた。
アドバイザーへの要望事項	特にない。コロナ禍では難しかったが、オンラインでの事前指導と対面での指導のハイブリッドを検討してもらいたい。

### 3. 地域情報化アドバイザー派遣実績

	派遣日	開始時刻	終了時刻	内休憩時間(分)	活動時間(分)
3-1. 活動	2021年2月15日	8時30分	13時00分	30	240
	派遣形態	講演(オンライン)			

### 4. 報告書に関してのAPPLICホームページへの掲載許可

掲載許可	<input checked="" type="radio"/> 掲載可
------	--------------------------------------

### 5. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

5-1. 支援を受けた対象者	属性(職員、一般、企業等)について【自由記述】	人数
	郡上北高校生徒12名・白鳥中学校生徒101名	113人
5-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果		
事業の課題・問題点(具体的にご記入下さい)	郡上北高校は地域課題解決型学習を取り入れているが、連携中学校では時間の制約等で十分な時間を確保できていない状況であり、交流の際に意見が出ないことも想定される。そのため、高校生は講座のファシリテーターとして位置付けていく必要も考えられる。昨年度実施をして参観した教員の意識が前向きに変容をしている。本事業を広く公開することで、生徒への指導だけでなく、指導する教員のスキルアップを目指したい。	
支援により目指す成果(具体的にご記入下さい)	中学生・高校生がともに地域の防災に関して当事者意識をもち「自分たちに何ができるか」を考えられるようになる。また、中学生と高校生が協働的に探究を深めていくことで、互いに地域の一員であるという意識をもたせたい。多くの教員が本事業に関心を寄せることで、教員の指導力の向上を目指したい。	
アドバイザーに支援を受けた内容(具体的にご記入下さい)	授業の冒頭に災害時ではマニュアルどおりの対応では生き抜くことは難しいと映像を見せながら指導をされた。その後、「災害時における避難所運営」をテーマに高校生がファシリテーターとして中学生を指導するために課題を提供した。中学生と高校生がともに活動する中で、適宜声かけをしていただきながら、最後に災害はいつ起こるか分からないため、常に災害が発生した場合のことを考えながら生きていくことの大切さを指導くださった。	
支援を受け改善又は解決された内容(具体的にご記入下さい)	避難所運営に必要なものについて考えても、当初は表面的な事柄しか考えられない様子が見受けられたが、オムツ1つでも子ども用、大人用とあることなど具体的に話をされることで、気づかされる部分が多いように見受けられた。地域の一員であるという意識をもって災害にどうすべきかを考える機会となったことは意義深いと感じられた。また、多くの教員が参観し、本事業に関心をもちてもらうことができた。オンラインツールの有効性も認識された。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑦その他
	中学生・高校生ともに災害時にどう動くかを考える機会になった。また、オンラインツールの利便性を実感する機会にもなった。	
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容(具体的にご記入ください)	特にない。今年度で2回目の実施であったが、昨年度受講した中学生が防災に関心をもちたことから、濱田氏による指導を継続して実施することが望まれる。今年はコロナ禍ということで申請が遅くなったが、6月頃にオンラインで指導、12月頃に対面での指導を模索していきたい。	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。)アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 コロナ禍の中で校種が違いうためにアンケートの実施が難しかった。そのため、生徒に個別に面談を実施した。防災について考える機会になった、協働的に探究することで視野が広がったなどの好意的な意見ばかりであった。	
5-3. 今後の計画	最も当てはまるもののリストより選択下さい	⑤その他
事業の最終的な目指す姿	毎年11月に実施される地域探究の発表会で、生徒の質的な変化をみたい。昨年度、本事業を受講した中学生は他県生徒とのオンラインミーティングにも参加し、防災に関する提案を発表に入選している。生徒にとって有意義な活動であることは間違いない。	

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真（JPEG）」を次ページに数枚程度貼り付けて下さい。

